

拙堂會報

発行所
齋藤拙堂顕彰会
理事長 飯田 俊司
津市一身田豊野
1406-197

新執行部誕生	1	月ヶ瀬観梅と崇廣堂見学	7
加藤会長就任挨拶	2	第三回俳句・短歌応募作品	8
飯田理事長就任挨拶	3	第三回拙堂顕彰吟道大会	11
退任挨拶 前会長前常務	4	津市へ拙堂関係資料を寄贈	11
第二回小中学生書道展	5	令和元年度総会報告	12

新執行部誕生

拙堂会の更なる発展を目指して

令和元年五月十二日(日)アスト津

四階の橋北公民館会議室において齋藤拙堂顕彰会令和元年度総会が開催され、平成三十年度の事業報告と決算、令和元年度の事業計画と予算・役員改選・会則の改定を審議、満場一致で可決されました。

中でも大きな事柄は役員改選で、当会の設立に特段のご尽力を頂きました齋藤正和会長、また事業運営の中核を担われました中川常務理事がご高齢なご一身上の都合により第一線を退かれ、

顧問に就任されました。

後任の会長には加藤龍宗理事長が、理事長には飯田俊司副会長が、常務理事に安村久仁男理事が就任されました。加藤新会長は平成二十八年九月、今回ご退任の齋藤・中川両氏とともに本会を立ち上げた方で、平成二十八年に三重県文化功労賞を受賞され、また長年、津市吟剣詩舞道連盟の会長を勤めておられます。

飯田新理事長は、百五銀行の会長・津商工会議所の副会頭などを歴任、ま

た長年、津高同窓会の会長を勤めておられ、平成二十九年五月に当会の副会長に就任されました。安村新常務理事は百五銀行の支店長を歴任されました。当会の当面する最も大きな課題は財政基盤をなす会員の増強にあります。新執行部によって一段と強固な基盤が築かれることが期待されます。

理事一覧

- 加藤龍宗・飯田俊司・伊藤誠司・稲垣武嗣・岡重夫・小川直紀・小林貴虎・種田真山・中川左和子・林朝子・藤貴静扇・水谷忠文・三藤治喜・安村久仁男・山崎満世・米田豊田

監事 菅野克也 國分昭男

顧問 前葉泰幸 上田 豪

齋藤正和 中川禎二

会長就任のご挨拶

会長 加藤龍宗



会長 近影

この度当会の設立者であり、拙堂翁の玄孫に当たられる齋藤正和会長のご推挙と役員各位のご推選により、会長を拝命することとなりました。加藤龍宗でございます。私は一介の吟詠家であり、詩歌に親しむ風流人でありますのでお断り申し上げましたが、設立の経緯を鑑みてお受けすることといたしました。宜しくお願い申し上げます。

さて拙堂顕彰会の第一の目的は拙堂を称え、その偉業を後世に伝えることとあります。第二はその偉業を遍く四

海に広め、郷土の文化の向上に資することとあります。生誕二百二十年の記念の年以來、三ヶ年の活動において少々名声を高めることは成し遂げたと考えられます。今後はより深く拙堂を広める地道な活動が求められます。行政のご協力を頂きながら会員の皆さまと共にこの会が末永く発展できますことを祈念申し上げ挨拶いたします。

では、拙堂の詩の中から、生涯自然を愛し、花を好んだその一詩「牡丹の花」を紹介しましょう。

牡丹 齋藤拙堂

君主 笑ひを帯びて看
相ひ見て 相ひ羞しす
富貴は 天の賦する所
花心 豈に求める有りや

花言葉は「富貴」「恥らい」「誠実」などですが、古来より「百花の王」といわれ、中国では国花として重んじられています。

吾国には奈良時代に伝えられ、平城の都は初夏になれば咲き乱れ、人々の心を癒したといわれています。

君主笑いを帯びて看くと詠い、富貴は天より与えられたものであると吟じ、百花の女王であることを称えています。拙堂の心を垣間見ることができます。



理事長就任のご挨拶

理事長 飯田俊司



理事長 近影

五月十二日の総会で齋藤正和会長が退任され、代わりに加藤龍宗理事長が会長に就任された後を受けて、理事長に選任されました。

お二人は齋藤拙堂・生誕二百二十年を機に、平成二十八年九月十九日の齋藤拙堂顕彰会設立にご尽力されるとともに、会長・理事長を努められ、本会も漸く軌道に乗ったところで齋藤会長のご退任、まさに青天の霹靂、拙堂の勉強を始めて間もない浅学菲才の身でありながら、理事長職を継がしていたべくこととなりました。

齋藤会長は拙堂の玄孫として、多くの拙堂著作(漢文で書かれている)を、会報でも述べられた通り「現代人にもわかる表現に直し、これを学ぶ機会を作りさらに拙堂の遺業を伝える」べく現代語で著し、お蔭で我々も拙堂の知識・思考・偉業に触れることが出来るようになりました。今後も顧問として、本会の発展のためご指導頂きますようお願い致します。

加藤前理事長は著名な吟道家として、拙堂の漢詩の紹介・解説等を通じ拙堂の理解度を高めるために大いに貢献しておられます。今後も会長としてご尽力賜りますようお願い致します。

また会の運営全般を担当された中川常務理事、会報発行を担当された塚澤理事も退任されることになりました。これまでの多大なご尽力に深く感謝申し上げます。

拙堂は、儒学者・漢学者・教育者・経世家・漢詩文家・啓蒙家として幅広い分野で多くの著作物や実績を残され

た津市の誇る偉大な先人であります。拙堂顕彰会は会則にもあるように、拙堂の遺業を顕彰することが使命であります。顕彰とは、隠れた功績などを明らかにして知らせることですが、拙堂の遺業が津市民の方にもそれ程知られていないのが現状です。

このため本年度は事業計画に従い、俳句短歌の募集・小中学生書道展・吟道大会のほか、講演会・小中学校への出前授業・拙堂塾、三月に催した齋藤前会長ご説明の「月ヶ瀬バス旅行」のような拙堂ゆかりの地訪問などの広報活動を積極的に実施し、多くの人に拙堂の事を知っていただき、地域の文化振興に役立てればと考えています。

また、拙堂の理解者を増やし、会の財政基盤を高めるためには、会員の増加が是非とも必要であります。どうか会員の皆様のご協力・ご支援をお願い致します。

会長退任ご挨拶

前会長 齋藤正和



前会長 近影

この度、去る五月十二日の総会をもって会長を退任させていただきました。

病妻の在宅介護および私の健康という一身上の都合による退任で真に心苦しいのですがどうぞお赦してください。本会設立以来約二年半、地域文化振興の一環としての当会の活動を着々と進めてまいることができましたことは偏に会員の皆様の暖かいご協力、役員各位の献身的ご尽力の賜物でありまして心より感謝申し上げます次第でございます。なお、今後とも私は郷土の先賢の語り部として及ばずながら努め

させていただきますのでどうか宜しくご指導のほどお願い申し上げます。郷土の先賢齋藤拙堂は「劳心」(弱者へのいたわり)を説きました。社会主義的悪平等でもなく新自由主義的な弱者切り捨てでもない友愛(仁)による「中庸」の道こそ今日、我々が拙堂から学ぶべき最大の教訓ではないかと思えます。会員各位のご健勝と当会へのご支援を祈念し、退任の挨拶に替えさせていただきます。

退任にあたって

前常務理事 中川禎二



前常務理事 近影

高齢となり退任させ頂くことになりました。当会発足以来二年半の短い間でしたが齋藤拙堂顕彰会が会員の皆様の大なたご協力のお陰で順調にスタートし、充実して参りましたこと、厚く御礼申し上げます。

想えば平成二十九年八月十四日、拙堂先生の茶磨山荘遺址碑の建立を機に齋藤会長、加藤理事長と共に発起人となり、大正時代から戦前にかけて活躍していた「拙堂会」の再興を志して同志を募り、同年九月十九日に賛同者二十名を得て本会が発足致しました。翌年には拙堂誕生二百二十年記念の数々の行事を開催、拙堂顕彰会の基礎固めを図りました。その後も、津市・財界・報道機関等のご協力を頂き、俳句・短歌・書道・吟道など各界の先生方のご指導もあつて本会の活動が充実して参りましたことは誠に慶ばしい事です。郷土の歴史文化の振興を図るために齋藤拙堂顕彰会が益々発展されることを祈って退任の辞と致します。

齋藤拙堂顕彰

第二回小中学生

書道展開催



受付風景



前葉津市長のご挨拶

平成三十一年二月九日(土)から十一日(月・祝)まで津市リージョンプラザ三階の生活文化情報センター(展示室)で齋藤拙堂先生を顕彰する第二回、小中学生書道展を開催し応募作品五百十点を展示、およそ四百名の方にご鑑賞を頂き盛況の裡に終了しました。また、最終日には津市長・市議会議長・津市教育長のご臨席を得て優秀作品の表彰式が行われました。

課題

小一 おしろ 小二 みどり

小三 せつどう 小四 入徳門

小五 有造館 小六 拙堂文話

中学生 月瀬記勝

書体

小学生は楷書・中学生は楷書又は行書。

応募作品選考結果

各賞の作品は左記の通りです。選考は当会の理事で書道展担当の稲垣武嗣先生、小川匪石先生、林俊慧先生の三名が行いました。

小学生の部

津市長賞

倉田 咲葵 津市立新町小学校四年

市議会議長賞

森田 瑚都 松阪市立港小学校五年

教育長賞

前川 愛結 津市立豊が丘小学校三年

齋藤拙堂顕彰会会長賞

内田 玲惺 津市立新町小学校一年
小川 欺歩 伊勢市立小俣小学校一年

奥山実莉亜 みりあ	中藤 凜 りん	大西 可純 かすみ	宮武 百花 ももか	平手 綾華 あやか	横山 陽菜 ひな	堀 柚葉 ゆずは	山中 柚妃 ゆずき	鈴木 莉乃 りの	野島 葉 よう	大西 未桜 みお	上村 莉椰 りや	駒田 来星 らいせい	横山 颯祐 さつすけ	山口 瞬 しゅん
津市立成美小学校四年	津市立新町小学校四年	津市立新町小学校四年	津市立西が丘小学校三年	津市立立成小学校三年	津市立片田小学校三年	津市立片田小学校三年	松阪市立德和小学校三年	津市立新町小学校三年	津市立豊津小学校二年	松阪市立天白小学校二年	玉城町立有田小学校二年	津市立豊ヶ丘小学校一年	津市立立成小学校一年	津市立立成小学校一年
石見波瑠音 はるね	伊藤 来瞳 くるみ	山本明佑美 あゆみ	井上 璃那 りな	松本 朱里 あかり	安達 友楽 ゆあ	石原妃奈子 ひなこ	結城 俐香 りか	竹内 来夢 らいむ	伊藤さくら	岩崎 舞羽 まう	水野 絢菜 あやな	梶間 優花 ゆうか	長谷川結都 ゆづ	一色 咲良 さくら
津市立立成小学校五年	松阪市立天白小学校五年	津市立南立誠小学校五年	津市立南立誠小学校五年	津市立櫛形小学校五年	松阪市立掃水小学校五年	松阪市立天白小学校五年	松阪市立米ノ庄小学校五年	玉城町立有田小学校五年	津市立豊ヶ丘小学校四年	津市立豊ヶ丘小学校四年	松阪市立掃水小学校四年	松阪市立德和小学校四年	松阪市立天白小学校四年	津市立豊津小学校四年
小瀬古 華 ほのん	伊藤 真央 まお	齋藤拙堂顕彰会会長賞		福島 沙樹 さき	教育長賞			徳永 百華 ももか	津市長賞		中学生の部		平山 実果 みか	大浦地美月 みつき
学校法人三重中学一年	松阪市三雲中学校一年			津市立豊里中学二年	中学校三年			三重大学附属中学校三年					津市立新町小学校六年	松阪市立德和小学校六年

高松	美友	津市立豊里中学校一年
西堀	修斗	玉城町立中学校一年
藤井	未来	津市立豊里中学校一年
大西	泰成	津市立西橋内中学校二年
中川	晴香	津市立朝暘中学校二年
新田	恵斗	津市立豊里中学校二年
平川	優衣	津市立西橋内中学校二年
丸山	弥子	高田学園高田中学校三年
米川	歩里	鈴鹿市立平田野中学校三年
脇	菜月	松阪市立久保中学校三年

なお、令和元年度の第三回小中学生書道の募集期間は令和元年十二月二日(月)～令和二年一月十九日(日)で、書道展は同年三月六日(金)～八日(日)にリージョンプラザで行われます。

月ヶ瀬親梅と崇廣堂 へのバス旅行

平成三十一年三月十七日(日)拙堂会主催の月ヶ瀬の親梅と伊賀市にある津藩有造館の支校であった崇廣堂(一八二一年築)を見学するバス旅行が行われました。参加人員は四十二名。三重交通のバスで午前九時津駅前を出発、車中齋藤会長から「月ヶ瀬記勝」のお話があり十時半に月ヶ瀬に到着。



月ヶ瀬・齋藤拙堂碑



崇廣堂

先ず齋藤拙堂碑(平成五年建立)を見学の後少雨煙る中、広大な梅林を散策して二つ目の拙堂碑を拝見。昼食は美晴亭で種田・米田理事の皆様による「月ヶ瀬」の朗吟を拝聴。午後二時、崇廣堂を訪ね伊賀市教育委員会の福島先生に解説を頂き、二時間ほどの実り多い見学を終え帰路につきました。

俳句・短歌応募作品

選考結果

第三回齋藤拙堂顕彰・俳句短歌の募

集は、俳句一六八句(応募者数三十七

名)短歌六十首(応募者数二十三名)

の作品が寄せられ、俳句は当会理事の

山崎満世先生、短歌は同じく理事の中

川左和子先生の選により、以下の作品

が、津市長・津市議会議長・津市教育

長・当顕彰会会長の各賞を受賞される

ことに決定、これらの作品は三月二十

四日開催の第三回齋藤拙堂顕彰吟道大

会で表彰式が行われ吟詠されました。

前年同様、選者の先生から佳作を選ん

で頂きましたので本紙に掲載致します。

俳句の部

津市長賞

拙堂の語り部のごと冬の鴉

高槻市 山崎 艸戊人

吟詠 児玉 龍笙

選評 おりから冬鴉が木の天辺でひと

つ鳴いている。拙堂のことを訥々と語っ

ているように。

津市議会議長賞

おぼろ月おぼろに照らす阿漕浦

津市 奥山 功

吟詠 児玉 龍笙

選評 春の靄をまとう朧月。あの阿漕

浦の昔の悲劇をつつむように朧に照ら

す。大きく掴んだ句。

津市教育長賞

本山に身構えて座し年惜しむ

津市 内田 観成

吟詠 木崎 真陽

選評 百畳の座敷に座すと背筋がのび

る。静かに過ぎ去った一年を思いつつ。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

騎馬像の大満月に対峙せり

津市 若林 宏幸

吟詠 木崎 真陽

選評 騎馬像の雄姿に焦点をあてた。

藤堂高虎を彷彿させる。

佳作

峰雲に踏んづけらるる経ヶ峰

津市 山本 清稀人

海面に花火消えたる遊漁船

津市 小寺 博

高速船見送る吾子の背の寒し

津市 大島 君代

拝すれば冬あたたかし拙堂墓

津市 内田 寿子

津城跡の常の抜け道木菟育つ

津市 西沢 博子

漉紙積む幾段階の手間を積む

松阪市 瀬川 友子

紅葉の積みて静かや一身田

松阪市 小坂 敏誉

弁財天戦火救ひし银杏舞ふ

津市 中村 峯子

拙堂の墳墓をぬらす伊勢時雨

津市 宮下 満寿美

一身田環濠集落草紅葉

津市 鈴木 ますみ



津市長賞の授与

顕彰会会長賞の授与



短歌の部

津市長賞

拙堂のおくつき訪へばはらはらと

津市 石川 裕子

津市 奥田 南山

津市 奥田 南山

選評 拙堂の墓所を訪ねた時の作品。

晩秋の午後拙堂を偲びつつ詠んだ作者

の思いが一読して伝わってくる。

津市議会議長賞

娘と共に結城神社の梅を見し

嫁ぐ日近く思ひ重ねつ

鳥羽市 田中 静

吟詠 竹村 観扇

選評 嫁ぐ日の近くなってきた娘と二人

結城神社へ参詣。旁々梅を見に行つた日を思い出している母親の感慨が表現されている。

津市 山下 幸子

入徳門に吹く風清し

津市 井村 久仁子

桜大樹の冬芽とがり来

蓮の実の飛んで二の丸御影堂

吟詠 久松 華由

蓮の実の飛んで二の丸御影堂

津市教育長賞

選評 当時の人々が礼儀を正しくして入徳門を潜って行ったのだろうかと思像しつつこの作者も入徳門を潜ったのではないだろうか。

津市 野田 三枝子

国宝の重みいよよ輝く

藩校の日も連山に夕陽没る

ひとり松籟聴きし城跡

津市 西沢 博子

一身田空青々と専修寺に

読経の絶えぬ秋の彼岸会

吟詠 松本 岳照

佳作

津市 奥山 功

選評 城跡に立ち松籟を聞きつつ作者は、藩校の世もこのようだ。連山に没る美しい夕陽を見たのであろうと遠い昔に思いを馳せている。

拙堂の紀行文読む縁側に

老妻淹れし新茶の香り

大津市 森永 昌夫

遠乗りは文化センターまでの我が範囲

近くて遠い津の町走る

伊勢市 浜千代 悦子

無住寺になりて久しく寒松院

齋藤拙堂顕彰会会長賞

胸をはり襟を正して潜りしや

無住寺になりて久しく寒松院

伊勢市 浜千代 悦子

胸をはり襟を正して潜りしや

無住寺になりて久しく寒松院



高田本山・専修寺

第三回齋藤拙堂顕彰

吟道大会開催

平成三十一年三月二十四日(日)津センターパレス二階の中央公民館において、第三回齋藤拙堂顕彰吟道大会が、主催・津市吟剣詩舞道連盟、共催・津市、後援・齋藤拙堂顕彰会によって開催され、前葉津市長ほか来賓挨拶の後、俳句・短歌の表彰が行われ、選者講評のち受賞八作品が朗詠されました。大会は加藤龍宗先生企画構成による「月ヶ瀬に遊ぶ」という構成吟六編に始まり、会員吟剣詩舞では独吟五十四、合吟六、詩舞六が演じられ盛会の裡に閉会致しました。



吟道大会・案内

津市へ拙堂資料を寄贈

齋藤正和前会長

平成三十一年三月十三日、齋藤正和前会長が津市へ齋藤拙堂の肖像画・額装された拙堂の書・津藩の絵師池田雲樵画「茶磨山荘之図」の三点を寄贈されました。

寄贈品は齋藤前会長から「多くの津市民に見てもらい、拙堂を知って頂きたい」と直接、前葉市長、倉田教育長に手渡されました。中でも額装の書は「民是邦之本 本固邦寧」(民は是れ邦(くに)の本(もと)なり 本固まりて邦寧(やすらか)なり)と書かれ、今日的には民主主義の根幹を示す箴言と言えます。

寄贈品は津市大門のセンターパレス二階、中央公民館に向かって左側に展示されていますので、是非ご覧ください。



津市に寄贈された拙堂の資料



センターパレス 2階の展示場

令和元年度

拙堂会総会報告

令和元年五月十二日(日)アスト津・橋北公民館会議室において、第三回総会が開催され、各議題が満場一致で可決されました。以下、これを要約して報告します。

平成三十年度事業報告

六月一日 拙堂会報・第四号発行
 六月七日 津偕楽公園内の拙堂齋藤先生頌徳碑の清掃完了。(お掃除本舗)説明板にQRコードを設置(津市教育委員会)
 十月一日〜十二月十日 拙堂顕彰・第三回俳句短歌の募集(本紙八〜十頁を(参照下さい))
 十二月一日 拙堂会報・第五号発行
 十二月十日〜翌年一月二十二日 拙堂顕彰・第二回小中学生書道展作品募集(本紙五〜七頁を(参照下さい))

三月十七日 月ヶ瀬観梅・崇廣堂見学バス旅行(本紙七頁を(参照下さい))
 三月二十四日 拙堂顕彰・第三回吟道大会(本紙十一頁を(参照下さい))

令和元年度事業計画

- ① 出前授業の実施
- ② 拙堂塾(仮称)の開催
- ③ 拙堂顕彰・講演会の実施
 年二回の予定。令和元年五月二十三日・橋北公民館で第一回実施。
- ④ 拙堂顕彰・第四回俳句短歌の募集
 募集期間 令和元年十月一日(火)〜同年十二月十日(木)
 表彰式 令和二年三月二十二日
- ⑤ 拙堂顕彰・第三回小中学生書道展
 募集期間 令和元年十二月二日(月)〜令和二年一月十九日(日)
 書道展 令和二年三月六日(金)〜八日(日)・場所 津市リージョンプラザ三階・表彰式 令和二年三月八日(日)
- ⑥ 拙堂顕彰・第四回吟道大会
 俳句・短歌の表彰式も行われます。

日時 令和二年三月二十二日(日)
 場所 津市センターパレス二階
 中央公民館ホール

- ⑦ インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホームページ」の作成準備
 (プロジェクトチームの結成)

新年度財政の規模 六十三万二千元

会則の改定 会務の実行を円滑にするための組織変更

新理事・新監事

理事・藤貴静扇 監事・國分昭男

役員と理事の事務分担

会長 加藤龍宗

理事長 飯田俊司

常務理事・会計担当 安村久仁男

総務担当理事・事業企画担当 種田真山

広報担当理事 伊藤誠司・藤貴静扇

会員募集担当理事 三藤治喜

書道展担当理事 稲垣武嗣

俳句短歌展担当理事 山崎満世・

中川左和子